

【交流協会台北事務所主催】

2013 年度第 2 回中等教育機関日本語教師研修会
報告書

国立豊原高級中学日本語教師 賈志琳

テーマ：文化を中心とした高校第二外国語の日本語授業プラン実践報告

場 所：国立台中科技大学 中正大楼 6 F

日 時：2014 年 2 月 22 日(土) 14:00～17:00

このたび交流協会台北事務所の主催により、特別に台中で研修会を開くことができたことを大変うれしく思います。また、台中科技大学応用日本語系教授黄英哲先生のご協力によりすばらしい会場をご用意いただき先生方と交流する機会を得たことを感謝しております。

国際化グローバル化が叫ばれる中、台湾では外国語学習の分野が日に日に重要視されるようになってきました。教育部は 1999 年に普通科高校で試験的に第二外国語教育をはじめました。しかし、授業時間数が少ない、適当な教科書が無い、生徒の学習意欲の低下という状況の中で、現在高校の第二外国語教育は多くの問題に直面しています。今回の研修で紹介するのは、日本文化を理解することを中心にし、日本語学習へとすすめる高校第二外国語の日本語授業プランです。私はこの 10 年豊原高中で教えてきました。そのうち、日本文化を取り入れた授業に取り組んですでに 3 年となりました。今回は一年間（2012 年 9 月から 2013 年 6 月）を通した授業の内容をご紹介します。また、カリキュラムをどのように組み立てるか、教育目標・教案・学習記録ノートをどのようにプログラムするか、評価方法、自己評価表、グループ相互評価表、ポートフォリオなども紹介しました。このような日本語授業プランの実践報告をきっかけにして、多くの先生方と経験を共有したり、意見交換をただけでなく、実際の授業を例に挙げ生徒の学習成果の分析結果をご紹介します。このほか、この一年の生徒のアンケート調査の中でもっとも人気の高かった 3 つの授業、「横島さんとおしゃべりをしよう」「日台のタブーとジェスチャーについて」「日本の CM を見ましょう」を詳しく紹介しました。実際の授業のときの学生たちの反応や質問や、研修会にいらっしゃった先生方と議論から、多元的文化の可能性について考えました。（配布資料を参照してください）

また、先生方に学習記録ノートの書き方を理解してもらうために、研修に参加した先生方自身にも実際に学習記録ノートを書いてもらいました。集めた学習記録ノートの中から、先生方の感想やご意見を整理してみました。今後の授業の参考になれば幸いです。

【こんなことに気づいた】

- ・ポートフォリオとルーブリックなど、できることをやってみたい。
- ・CMの紹介は面白い。
- ・生徒に具体的なテーマや方向性を提供することで生徒も素晴らしい表現ができる。
- ・生徒に日本語学習の記録をポートフォリオに入れさせる。
- ・どんな日本事情も授業に取り入れられる。

例：CM、手の動作、5分間の歌のレッスン…など。

【もっと知りたいと思ったこと】

- ・日本のアニメ文化を利用した教育、教え方
- ・自分で教材を作るとき、どうやって作るのか。内容を選択するのか。

【感想】

- ・日本語と文化をうまく取り入れた活発な授業プランで、多くのことを学んだ。
- ・毎週1句
- ・ポートフォリオ
- ・これからは文型だけではなく、日本文化も取り入れたいと考えている。

【参加者からの質問】

- ・生徒が遅刻してくるが、どう対処しているか。
- ・日本語の歌の教え方。
- ・途中でクラスに加わった生徒に対するひらがな・カタカナの教え方。
- ・すでに日本語能力試験N5合格者がいるが、どう教えるか。
- ・日本人留学生との交流について、日本のコマーシャルについての情報。
- ・生徒が大学の日本語専攻の入試を受ける場合の面接試験について。
- ・毎週2時間のクラスが2年間あるが、動詞を活用を教えるべきかどうか。
- ・現在賈先生が使用している自作教材の内容について

先生方からとても多くの質問が寄せられました。それは、先生方がみないつも孤軍奮闘し、教育の現場では一人ぼっちで相談する相手が見つからないと常々感じているからでしょう。しかし、今回の研修会をとおして先生方みんながアイデアを出し合って、日々直面している問題をいっしょに解決することができて、突然目の前が明るく開けたように感じたのではないのでしょうか。研修会后みなお互いに連絡先を交換し合ったので、今後もしなにか問題があってもお互いに助け合うことができるでしょう。私たち高校の教師が日本語教育の現場でさらに一歩前進していくことを期待しています。みなさん、がんばりましょう！